

## 第13回東京女子医科大学血栓止血研究会

日時 平成6年3月4日(金) 6:00~8:00pm

場所 第一臨床講堂

当番世話人挨拶

(循環器内科) 細田 瑛一

一般演題

座長 (国立横浜病院循環器科) 青崎正彦

### 1. 拡張型心筋症 (DCM) における血栓塞栓症の臨床的検討

(循環器内科) 野田水奈子・岩出和徳・山下倫生・青崎正彦・

大森久子・薄井秀美・堀江俊伸・細田 瑛一

(同 研究部) 大木勝義

### 2. 特発性血小板減少性紫斑病症例における抗リン脂質抗体陽性の臨床的意義

(血液内科) 青山 雅・小林祥子・寺村正尚・山田 修・

増田道彦・泉二登志子・押味和夫・溝口秀昭

### 3. 無症候性脳梗塞における血小板機能と血管病変

(神経内科) 内山真一郎・原由紀子・丸山勝一

(脳神経外科) 高倉公朋・井沢正博

(青山病院) 木全心一

(戸田中央総合病院) 田中邦夫

### 4. 妊娠中母体血中線溶系酵素の動態とその意義

(産婦人科) 佐倉まり・安藤一人・高 眉揚・中林正雄・武田佳彦

座長 (循環器内科) 細田 瑛一

特別講演

線溶系反応の制御機構

(自治医科大学血液医学研究部門止血血栓助教授) 坂田洋一

### 1. 拡張型心筋症 (DCM) における血栓塞栓症の臨床的検討

(循環器内科, \*基礎循環器科)

野田水奈子・岩出和徳・山下倫生・

青崎正彦・大森久子・薄井秀美・

堀江俊伸・細田 瑛一・大木勝義\*

〔目的〕 DCM では、血栓塞栓症 (TE) の合併頻度が高いとされるが、その病態の臨床的検討成績は少ない。今回、TE の臨床像を中心に検討を行った。

〔対象および方法〕 対象は、当院において心臓カテテル検査および心筋生検により DCM と診断した109例 (男89例, 女20例, 平均年齢: 49.9歳)。TE の発症頻度, 病態 (心房細動, 心不全の有無, 抗血栓薬の使用状況など) を retrospective に検討した。

〔結果〕 109例中, 75例が生存, 死亡が34例 (剖検例18例) であった。臨床的に109例中24例 (22%) 37回にTE が合併し, 部位は, 脳17例 (TE 24例中71%) 25回, 肺6例 (25%) 7回, 末梢血管3例 (13%) 4回, 腎

1例 (4%) 1回に認められた。TE 発症時, 心房細動は13例に認められ, 洞調律は11例であった。発症時 NYHA I 度: 2例 2回, II 度: 12例 16回, III 度: 11例 15回, IV 度: 4例 4回であった。剖検18例中, 心腔内血栓は13例 (72%) 20心腔 (左室11例, 右室4例, 左房2例, 右房3例) に認められた。TE は11例 (61%) 22回 (脳3例 3回, 腎8例 8回, 肺6例 6回, 脾4例 4回, 末梢血管1例 1回) に認められた。

〔考察〕 DCM は, 臨床上天また病理学的にも TE の合併が多く, 抗血栓療法の適応例が多いことが推測された。

### 2. 特発性血小板減少性紫斑病症例における抗リン脂質抗体陽性の臨床的意義

(血液内科)

青山 雅・小林祥子・寺村正尚・

山田 修・増田道彦・泉二登志子・

押味和夫・溝口秀昭